

C-75 手動縫製時の内的・外的要因の脈波に及ぼす影響について

愛知淑徳短大 神谷い代子
○土田 正子

1. 運針作業の基礎理論及び指導方法上の根拠等については前に報告しているので今回は短大生を被検者としてその縫製作業における外的要因（環境，騒音），内的要因（心情）がどのように影響するかを末梢動脈波の変化から検討して今後の実技指導上の一指針にしたいと考えて試みた。

2. 1)脈波は被検者の右示指先端に指尖脈波用ピックアップを装着し，反射型容積脈波計に連結し，さらに直記式二要素心音心電計に連結して記録した。

2)試料布はいずれも縞もめんを用い布二枚重ね直線の自然縫いと，ひとえ長着えりつけ片身ごろに仮定したものと2種類にし，この縫合作業を通して被検者の外的要因としては(イ)静粛時，(ロ)騒音時を選び，内的要因としては作業中及び作業に関しての心情をアンケートによって調査した。

3)脈波測定の方法は，作業前の安定状態，作業直後及び3分後の状態を測定して各場合を比較検討した。なおアンケートは作業終了後用紙に被検者各自に解答を記入した。

3. 運針作業時の環境，心情は脈波にかなり影響のあること，脈波パターンが作業時の心情のある程度の指標となるのを見ることができた。今後はこれを手がかりに実技指導と精神衛生面の問題について勉強したいと考える。